

## ～遠く故郷を思う～ 第4回関西和-water会

11月7日(日)、大阪市内のホテルで関西和-water会総会が行われました。関西和-water会(山内英治会長)は故郷・和-water町を離れて関西地域で暮らしている人を中心に構成される郷里出身者の会で、今回は関西地域だけでなく東京・神奈川などからも集まり総勢64名の参加となりました。

総会では旧三加和町時代の「関西三加和会」が設立された当初から長年にわたり事務局長を務められた平弘之さんに感謝状が贈られました。

つづく懇親会では和-water産の果物や焼酎を味わいながら、かつての同級生との久しぶりの会話を楽しんだり、町の様子を映した映像を楽しんだりと大いに盛り上がっていました。最後は参加者全員での「故郷」の大合唱で会が締めくくられました。



山内英治会長

## 和-water町観光協会から肥後民家村に募金箱が寄贈されました

この度、和-water町観光協会から肥後民家村に新しく募金箱が寄贈されました。

現在、町で管理運営する肥後民家村は無料で入村することができますが、施設の維持管理には多額の費用がかかります。そのため、入口に竹筒の募金箱を設置し、入村されるお客様から清掃美化への協力金をいただいています。

しかし、竹筒では、盗難などの心配もあり、今回の寄贈となったものです。

みなさまからの協力金は、これからも肥後民家村の清掃、修繕など、維持管理費用として活用させていただきます。



# 和水町ふれあいの森検討委員会が開催されました

和水町のほぼ中央に位置するふれあいの森（あばかん家とスカイドーム2000の間の森林一帯）の今後の利活用を審議する第1回ふれあいの森検討委員会が、11月12日（金）に開催されました。

ふれあいの森の整備などについては、旧三加和町において住民参加のもと平成14年度事業として基本計画及び基本設計が策定されていました。策定に当たっては、ふれあいの森検討委員会が設置されていたところです。その後、市町村合併における菊水・三加和合併協議会での協議では、『三加和町のふれあいの森検討委員会については、新町においても設置するものとし、組織のあり方などについて新町において調整する。』という調整内容で決定していました。平成18年3月に和水町が誕生し5年目を迎えています。新町になってからは、その後のふれあいの森の整備などについての検討及び検討委員会の設置は成されていない状況でした。また、平成18年11月に熊本県立大学との包括協定締結を機に、同大学と富士電機グループの協力を得て里づくり協議会「なごみの里」を実施主体とする里山再生活動「なごみの里プロジェクト」が展開されているところです。

これらのことから、和水町が誕生して、財政的、環境的にも大きく変化しており、これまでの経緯及び現状を踏まえ、今後のふれあいの森の利活用の方針となる新たな計画を検討するため、和水町ふれあいの森検討委員会が設置されました。

委員は13人（周辺地域・一般住民・里づくり協議会・里山再生活動・商工業等・三加和温泉郷組合・玉名森林組合・学識経験を代表する者）で構成されています。

当日は、里山再生活動の場所及び周辺を確認し、その後、役場本庁で委嘱状の交付、会議が行われ、活発な、また前向きな意見が出されたところでした。

次回は、ふれあいの森を歩いて廻り、里山再生活動及び開発エリア・内容などを検討することになっています。

